

# こむぎ通信

令和5年2号

令和5年産の小麦の幼穂形成期は3月23日で、  
生育ステージは平年よりかなり早く進んでいます。

## 1 気象と生育状況

### (1) は種後の気象状況 (十和田市アメダス)

平年より気温が高く、降水量は平年並かやや少ない。日照時間は平年より多い。

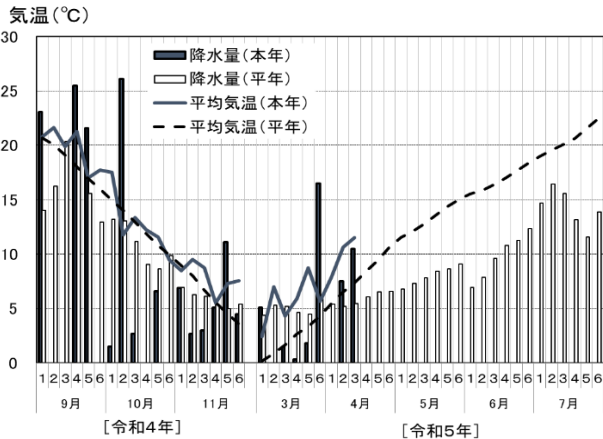


図-1 気温と降水量

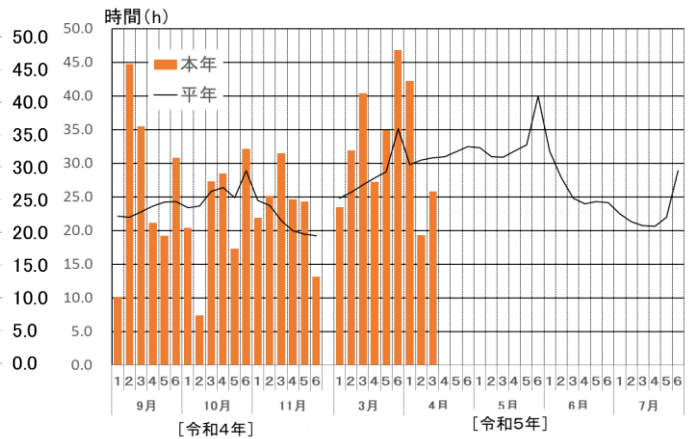


図-2 日照時間

### (2) 生育状況

県生育観測ほの幼穂形成期は3月23日(平年比10日早)だった。

4月10日現在の生育は、草丈、茎数ともに平年を上回った。幼穂長は2.69mmだった。

幼穂長から予測する令和5年度の開花予想は5月21日で、平年より早まる見込み。

表-1 生育調査結果

地点名	年度	生育ステージ					品種:ネバリゴシ 4月10日	
		は種期	幼穂形成期	止葉抽出期	出穂期	開花期	草丈(cm)	茎数(本/㎡)
県生観 十和田市 相坂	本年	10月6日	3月23日				22.7	1746
	平年	9月27日	4月2日	5月9日	5月22日	5月29日	17.0	1273
	比・差	9	-10				133	137
地区生観 十和田市 赤沼	本年	9月27日	3月23日				25.0	812
	平年	9月28日	4月3日	5月12日	5月18日	5月29日	16.2	823
	比・差	-1	-11				154	99

※ 平年値は、県生観が平成14～令和4年産、地区生観が平成19～令和4年産の平均値

※ 止葉抽出期の平年値は、県生観が平成27～令和4年産、地区生観が令和元～令和4年産の平均値

## 2 病虫害等発生状況

うどんこ病、雪腐病の発生は平年より少なかった。

一部のほ場では、令和4年10月上旬の降雨による湿害で生育にムラがみられる。

## 3 止葉抽出期～出穂期の追肥作業

一般に、止葉抽出期の追肥は一穂粒数を増加させる効果があり、止葉抽出期～出穂期の追肥は子実のタンパク含有量をも高める効果が期待できる。

追肥量は10a当たり窒素成分で2kgを基準とし、生育や葉色等で追肥量を加減する。